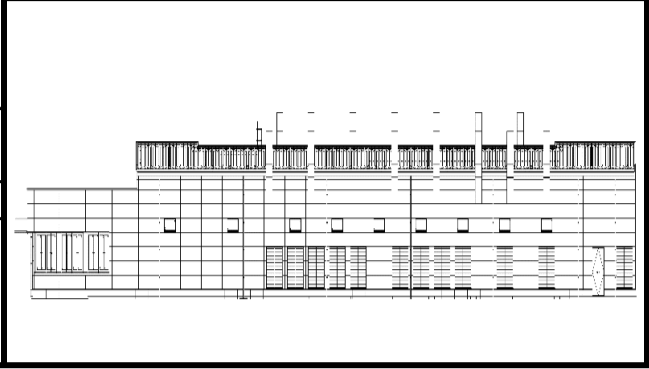


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)エステーティー株式会社 刈谷工場	階数	地下0階地上1階
建設地	愛知県刈谷市半城土町生出104-10	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	12人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,960時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年3月 予定	評価の実施日	2022年7月14日
敷地面積	14,093 m <sup>2</sup>	作成者	大和ハウス工業株式会社中部建築一級建築士事務所 畑中 洋介
建築面積	2,219 m <sup>2</sup>	確認日	2022年7月14日
延床面積	2,239 m <sup>2</sup>	確認者	大和ハウス工業株式会社中部建築一級建築士事務所 畑中 洋介



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1**

★ ★ ★ ★ ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ★

30%: ★ ★ ★ ★ ★ 60%: ★ ★ ★ ★ ★ 80%: ★ ★ ★ ★ ★ 100%: ★ ★ 100%超: ★ ★

標準計算

①参照値: 100% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 93% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の: 93%

④上記+: 93%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.3

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

**3.2**

#### ③敷地内の緑化

**2.0**

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

**47.8 %**

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

**0.0 %**

#### ②資源の有効活用

**3.3**

#### ④地域材の活用

**1.0**

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		重み係数	全体	
				評価点	評価点	評価点	評価点			
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>										
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	
<b>1.3 吸音</b>										
<b>2 温熱環境</b>										
<b>2.1 室温制御</b>										
1 室温				3.0	-	-	-	-	-	
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>										
<b>2.3 空調方式</b>										
<b>3 光・視環境</b>										
<b>3.1 昼光利用</b>										
1 昼光率				3.0	-	-	-	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	-	-	
<b>3.2 グレア対策</b>										
1 昼光制御				5.0	-	-	-	-	-	
<b>3.3 照度</b>										
<b>3.4 照明制御</b>										
<b>4 空気質環境</b>										
<b>4.1 発生源対策</b>										
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>										
1 換気量				3.0	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>										
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>										
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自			3.0	-	-	-	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>										
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>										
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>										
1 躯体材料の耐用年数				0.3	3.3	0.33	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			-	3.0	0.23	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	5.0	0.15	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	
<b>2.4 信頼性</b>										
1 空調・換気設備				0.1	2.6	0.19	-	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
3 電気設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	②			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	

主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用

3 対応性・更新性				0.4	3.4	0.48	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		3.9m以上	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.103<0.3	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.61	3.0	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.86	3.0	2.7	0.50	-	-	-	2.7
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.6
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマなどに加えて、省水型機器を用いている	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.6	0.63	-	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	タイルカーペット「NT700」塩ビシート「エスリュームマール」	3.0	4.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能、再利用できるユニット部材を用いている	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いた断熱材等を使用していない	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率93%	-	3.2	0.33	-	-	-	3.2
2 地域環境への配慮				0.3	3.3	0.33	-	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止			ばい煙発生施設なし	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		屋外広告物照明なし	-	4.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)エステーティ株式会社 刈谷工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.2</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.3</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:47.8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

# ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)エスティーティー株式会社 刈谷工場

計画上の配慮事項	
総合	環境に配慮した資源を使い、安全で快適に過ごせる建物を作ろうとしている。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	建築物に対して十分な耐用年数を持つ空調・給排水配管がなされている。
Q3 室外環境(敷地内)	可能な限り緑地を配した。
LR1 エネルギー	BEIm=0.86
LR2 資源・マテリアル	リサイクル材を利用し、資源の有効活用に努めている。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率=93%
その他	特になし